

2000年（平成12年）に突如「文部科学大臣認定」から「日体協公認スポーツ制度」に改変された。文科省が手を引き、日体協が担当することになり、現在に至っているのである。しかし、その制度に対応する動きがみられない現状がある。

一方、スキー場ではオフピステの活用など行動範囲は拡大され、スキー指導者の必須課題も増している現状がある。スキー先進国に習い指導者育成のために、諸問題をクリアしなければならない課題を抱えていると言えよう。

さて、一方でこの平成の時代に入った頃スノーボードが出現、2010年（平成22年）頃からスキー離れの兆しが見られ、現在のスノースポーツの低迷に繋がっている現状がある。その中で、SAJスキー指導者の受検者数も低迷しているのではと思う。

今こそ、私たち全国の有資格者は、スノーボード指導員とも連携し、スノースポーツ活性化のため、SAJ本部を担当する仲間と一体となって、前記の課題も含め、組織的な活動の必要性を肌で感じている。

この現状の中、組織としてその先頭に立ち実践している「北海道スキー指導者協会」の活動に心から敬意を表すると共に、今後さらに活躍発展することを願ってやまない。

丸山庄司氏プロフィール

- 昭和8年（1933年）11月15日生まれ。長野県出身
- 昭和28年から10年間、日本アルペンスキー界のトップ選手として活躍、引退後はコーチとして後輩の指導・育成に努める
- 昭和39年（1964年）第1回SAJデモンストレーター選考会において、初代デモに認定される。翌年、オーストリアのバドガシュタインで行われた第7回インタースキーに参加。デモとして活動しながら、スキー指導者としても後輩の育成に努める
- 昭和56年（1981年）からSAJ理事に就任。アルペン部長としてイタリア、アメリカで行われたアルペンスキー世界選手権大会の日本チーム監督。その後、SAJ教育本部長、SAJ専務理事を歴任。長野・冬季オリンピック競技大会招致活動やアジア各国とのスキー交流にも貢献。これまで国内外のスキー界を支えてきた功績は大きい
- 平成19年（2007年）旭日双光章（スポーツ振興）叙勲